令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和７年４月１５日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立旗台小学校

国　語

(1) 定着状況の概要

６学年中、４学年が目標値を超えることができ、特に第３学年では目標値よりも高い結果を出すことができている。

どの学年でも、「読むこと」に関する領域は目標値を上回っており、３学年が区の平均も上回っている。昨年より、朝の読書タイムを設定し、本を読むことから１日をスタートさせる習慣を付けてきたことも「読むこと」に親しむきっかけになったと考えられる。

第２・３学年では、情報の扱い方に関する領域、第４～６学年では、漢字を書くことや言葉の学習が目標値を下回っていた。どちらの項目においても、国語の授業の中で扱うだけでなく、他教科や普段の生活の中でも活用する機会を増やし、知識・技能の定着を図っていく必要がある。

(2) 具体的な課題

知識・技能

・漢字を読み書きする。
・語句と語句の関係や役割について理解する。
・共通・相違・事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。

思考力・判断力・表現力

【話すこと・聞くこと】
・伝えたいことを明確にする。
・話の流れに沿って、話合いを進める。

【読むこと】
・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える。

【書くこと】
・内容のまとまりが分かりやすいように書く。
・書く内容の中心を明確にして、文章構成を考える。

(3) 課題の原因として考えられること

・既習漢字が未定着である。
・文法事項について扱う時間が不十分である。
・自分の考えを相手に伝わるように書いたり、話したりする力が身に付いていない。
・条件や構成を意識して文章を書く経験が少ない。
・国語の授業で学んだことを、他の教科や日常生活で生かせていない。

(4) 課題解決のための方策

・漢字や文法の理解については、ミライシードをはじめとする学習アプリを使用し、個々にあった問題を自分で選択し、学ぶ機会を増やす。
・自分の考えを構築する場面では、話型に沿って話したり、書いたりすることで、内容を明確にし、相手に分かりやすく伝えることができるようにする。
・国語科で身に付けた力を生かすことができるよう、他教科でも言語活動を充実させ、話合い活動や書く活動を取り入れた指導を行う。

(5) 次年度の数値目標

全学年でＡ層、Ｂ層の割合の合計を50%以上にする。

社 会

(1) 定着状況の概要

第４・５学年は、それぞれの目標値を上回り、第５学年に関しては、すべての領域別の内容で目標値を上回ることができた。第６学年は目標値より若干低く、特に、資料や地図から読み取る問題の目標値が低い。資料の読み取り方や活用の仕方を指導する必要である。

どの学年でも、自身の生活体験に結び付く内容に関しては、正答率は高い。しかし、記述式の問題や工業や産業に関する問題になると、正答率が 50%以下となるものが多かった。

各単元において日常生活とのつながりや、見学や体験を通して、知識を深めていく必要がある。

(2) 具体的な課題

４年生

市の様子
・市の様子の地図を読み取る。

工場の仕事
・工場の仕事の工程について資料を読み取る。

店ではたらく人
・商品の産地について、複数の資料を読み取る。

市の様子の移り変わり
・写真に注目して、市の様子を判断する。

５年生

自然災害からくらしを守る　地震
・地震が起きたときの自衛隊の役割について理解する。

６年生

世界の中の国土
・赤道について理解する。
・大西洋の位置と名称について理解する。

日本の国土と人々のくらし
・季節風について理解する。
・日本の気候の特徴に着目して、北海道の気候の雨温図を判断する。

日本の農業
・米づくりの作業（代かき）について理解する。

日本の食料生産
・日本の食料生産についての資料を読み取る。

自動車をつくる工業
・自動車の製造工程について理解する。
・関連工場について理解する。

日本の工業生産
・日本の主な工業地帯・工業地域について理解をもとに、資料を読み取る。

情報を生かした産業
・マスメディアの工夫についての理解をもとに表現する。

(3) 課題の原因として考えられること

・資料を読み取って答える問題での誤答が多く見られたため、目的や視点を意識して資料を読み取る力が弱い。
・グラフや年表を正しく読み取ることや資料をもとに考える学習活動が少ない。
・問題文と資料を関連させながら、問題解決に向けて考えることができていない。

(4) 課題解決のための方策

・授業で資料を活用する際は、「①表題、②軸の内容と単位、③出典と年数」の確認を習慣化させ、読み取る内容を焦点化して指導することで、資料を読み取る力の向上を図る。
・グラフの読み取りについては、算数の学習の中でも、グラフの種類とその特徴について意図的に取り上げ、定着を図る。
・各学年の発達段階に応じて、実際の事象をグラフや年表に資料化する学習経験を増やす。

(5) 次年度の数値目標

全学年でＡ層、Ｂ層の割合の合計を50%以上にする。

算数

(1) 定着状況の概要

第２学年から第６学年まで、目標値を上回っているものが多く、第３学年、第５学年は目標値を大きく上回ることができていた。

全学年を通して、測定・変化と関係については目標値よりもポイントが高く定着していることが分かる。一方で、数と計算の領域においては目標値を下回る学年や、上回ってはいるものの他の領域と比較するとポイントが高くない学年があり、全体的に定着度が低いことが分かる。

全体としては目標値を概ね上回っているが、領域によって差が見られるため、今後は学年間・領域館のバランスを図っていく必要がある。

(2) 具体的な課題

共通する課題としては、

- 計算や図形の概念や理解が浅い。単なる作業として捉えてしまっている。
- 問題文の意味を正確に捉えられず、数量関係を読み取る力が不足している。
- 活用・応用の場面でのつまずきが見られる。初見の問題や複合的な問題が弱い。
- 言葉で説明する力、筋道立てて考える力が不足している。

各学年の傾向としては、

- ２年：文章題の読み取りに弱さがあり、条件整理が不十分である。
- ３年：分数の概念や図形の性質の理解が不十分であり、図と分数、図形と名称を結び付ける問題でつまずきが見られる。
- ４年：平行四辺形や台形の性質の理解、折れ線グラフの読み取りで誤答が目立つ。
- ５年：割合や単位量あたりの考え方に課題があり、文章題への適応が不十分である。
- ６年：比や比例・反比例の活用問題、複数条件を整理する問題でつまずきが見られる。

(3) 課題の原因として考えられること

- 計算練習が不足しており、基礎力が身に付いていない。
- 文章題を読み取り、必要な情報を整理する読解力が不足している。
- 図形やグラフを作業的・体験的に扱う学習経験が不足している。
- 自分の考えを言葉や図で表現する活動が不足している。

(4) 課題解決のための方策

- 計算練習や既習事項の反復を計画的に取り入れ、学習アプリを効果的に活用する等して、基礎力の確実な定着を図る。
- 文章題では、場面や図や表に表す活動を取り入れ、情報を整理する力を育てる。
- 図形・グラフについては具体物や ICT を活用した体験的な学習を取り入れる。
- ペアやグループでの話合い活動を通して、自分の考えを説明・表現する機会を増やす。
- 易しい活用問題から段階的に取り組ませ、成功体験を積ませながら応用力を育成する。

(5) 次年度の数値目標

全学年でＡ層、Ｂ層の割合の合計を50%以上にする。

理科

(1) 定着状況の概要

すべての学年において理科の学力調査では、目標正答率および区全体の平均正答率を下回る結果となった。

第６学年では「植物のつくりと働き」や「電気回路・エネルギー変換」に関する知識・技能に課題が見られ、観察結果をもとに考察する問題の正答率が特に低い。

第５学年では「状態変化」や「温度と体積の関係」、「月の動きと地球の自転・公転」に関する内容の正答率が低く、知識を活用する場面でのつまずきが多い。

第４学年では「身近な自然の観察」や「植物の育ち方」、「風やゴムのはたらき」など、基本概念の理解に課題が見られた。

今後は、日常生活や体験と理科学習を結び付け、観察・実験を通して事象について、根拠をもって説明できる力を高めることが必要である。

(2) 具体的な課題

・４年生

身近な自然の観察
野外観察のしかたや虫眼鏡の使い方を身に付ける。

植物の育ち方
ホウセンカの育つ順序や種子について理解する。

磁石の性質
実験結果から２つの磁石の極を分析する。

物の重さ
電子てんびんの使い方を身に付ける。

・５年生

天気の様子と気温
気温の測り方を身に付ける。

動物の体のつくりと運動
腕の曲げ伸ばしをしたときの筋肉の様子について理解する。

月と星
星座早見表の使い方を身に付ける。

物の体積と温度
水をあたためたときと冷やしたときの体積の変わり方について理解する。

・６年生

植物の発芽と成長
発芽に必要なものを調べるために実験計画を立てる。

流れる水のはたらき
堆積のはたらきについて理解する。

顕微鏡の使い方
顕微鏡のピントの合わせ方や倍率を上げる方法を身に付ける。

ふりこのきまり
ふりこの周期の平均を求めるための式が分かる。

(3) 課題の原因として考えられること

・「電気」「粒子」「天体」など、目に見えない現象をイメージして理解する力が弱い。
・観察・実験結果を生活場面に関連付けて考える活動が不足している。
・用語を丸暗記していて、意味や現象との結び付きが弱い。
・「観察→考察→結論」のプロセスを意識した学習が不十分で、科学的に説明する力が育っていない。

(4) 課題解決のための方策

・タブレットや模型、図表を用いて現象を可視化し、理解を深める。
・「問題→予想→計画→観察・実験→結果→考察→結論」の流れを意識させる授業展開を行う。
・観察・実験結果を自分の言葉で言語化する活動を重視する。
・単元導入時に生活経験や身近な現象と結び付ける課題設定を行い、学習意欲を高める。
・科学の楽しさや面白さを実感できるような、体験的な学びを取り入れる。

(5) 次年度の数値目標

全学年でＡ層、Ｂ層の割合の合計を50%以上にする。

英語

(1) 定着状況の概要

第６学年は、９項目中７項目は目標値を大きく上回り、全体的には目標達成という結果になった。特に会話全体の理解（聞くこと）においては、目標値を上回り、定着度が高かった。単語や表現の意味理解（聞くこと）や、日常会話の理解（聞くこと）、会話全体の理解（聞くこと）では、高い正答率となっている。しかし、アルファベットの読み（聞くこと）、英作文の問題では目標値を下回っていた。活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を問われた問題では、大文字・小文字共に正答率が低くなっている。また、聞く問題と英作文の問題を比較すると、英作文の問題では無回答の児童も多いことから、英語を書くことへの苦手意識をもっている児童がいることが想定される。

今後も、英単語や短い英文の聞き取りや書く活動の定着を目標とし、子どもたちが楽しみながら英語の力を育んでいくことができるよう指導をしていく。

(2) 具体的な課題

聞く力

・曜日や月名、日課など身近で簡単な単語を聞き、その意味を理解する。
・曜日や月名、日課などの単語が使われている英文を聞き、聞き取る。
・活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付ける。
・道案内をする場面の対話を聞き、具体的な情報を聞き取る。

英作文

例文を参考にしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。

(3) 課題の原因と考えられること

聞く力

・曜日や月名、日課など身近で簡単な単語を授業外で使う機会が少ない。
・既習の単語を繰り返し使う機会がないため、なかなか定着につながらない。

英作文

・書く活動の時間が十分に確保できておらず、英作文の作成に慣れていない。

(4) 課題解決のための方策

聞く力

・Picture Dictionary を活用し、随時単語の振り返りを行うようにする。
・自分のスピーチ原稿作りに既習の単語を取り入れられるようにする。

英作文

・校内の英語に関する学習掲示を各階に増やす。
・書く活動では、例文を参考にしながら、スピーチの原稿作りを行ったり、自分で英文が書けたりすることを目標に取り組めるようにする。

(5) 次年度の数値目標

全学年でＡ層、Ｂ層の割合の合計を50%以上にする。